

要塞施設をそのまま美術館にした『友ヶ島第3砲台美術館』が、  
神秘の無人島・友ヶ島に10月3日(木)よりオープン。

友ヶ島を舞台にした架空の物語を追体験する企画展  
『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』を開催

2019年10月3日(木)～10月31日(木) | <https://ymtk.t3fm.jp>

2019年10月3日(木)より開館する『友ヶ島第3砲台美術館』は、開館を記念して、10月3日(木)～10月31日(木)の1ヶ月間、展示室となる第3砲台跡全体を使った大規模な企画展『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』を開催いたします。

『友ヶ島第3砲台美術館』は、「要塞島が美術館に。」をコンセプトに、近年神秘の無人島として注目を集めている和歌山市北西加太沖に浮かぶ無人島群・友ヶ島にある歴史的な要塞施設をそのまま美術館に変える試みで、和歌山市がエイベックス・エンタテインメント株式会社と共同開発した音声ARアプリ『友ヶ島』を使って楽しむ、世界でも類を見ない“音の展示”にフォーカスした美術館です。



そして、その開館を記念した企画展として、カンヌ広告祭やNYADCなど数多くの世界的広告賞の受賞経験を持ち、近年はイベントや店舗、操縦可能なロボット「KURATAS」のプロデュースまでその表現領域を常に拡張し続ける広告業界の鬼才：カイブツ木谷友亮をディレクターに迎え、友ヶ島を舞台にした架空の物語を追体験する『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』を開催いたします。

『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』は、小説家・三崎亜記さんが書き下ろした“友ヶ島に存在していた謎の生物・ヤミツクの物語”を題材に、ある博士がこのヤミツクを調査／研究してきた内容を追体験するという全く新しい発想の展覧会で、没入性の高い音声ARアプリから聞こえてくる博士による一人語りに耳を澄ましながら、各展示室に置かれた調査／研究結果を示す展示物(アート作品)を鑑賞いただきます。



更に、常設展示として、国際コンクールなどで上位入賞するなど世界的に高い評価を得ている和歌山児童合唱団の幻想的な童謡が、島の時空を彩る音声ARアート「サウンドスケール（Sound Scale）」も展示。かつて国を守るため、幾つもの砲台が設置され、要塞島となった友ヶ島。その歴史遺産をそのまま生かし、暗闇の中で、微かな光に目を凝らす・音に耳を澄ますことで楽しむ美術館。暗い戦争の時代から時を止めた空間の中で現代に産声を上げる新しいアート作品の数々をお楽しみいただけます。

## 1. 友ヶ島の更なる観光活性化に向けて、音声ARアプリ『友ヶ島』を開発

和歌山市北西加太沖に浮かぶ無人島群「友ヶ島」は、「地ノ島」、「虎島」、「神島」、「沖ノ島」の総称名です。「沖ノ島」は第二次世界大戦時に要塞施設となった島で、今でも当時建設された砲台がかつての姿のまま残っています。一方、緑深い照葉樹林が繁り、様々な植物・磯の生きものなどが生息する自然の宝庫でもあります。昨今、まるで時が止まったような神秘的な「友ヶ島」の雰囲気大きな話題となっています。そして、そんな島の魅力をより多くの方に知っていただく為に、エイベックス・エンタテインメント株式会社と共同で観光ガイドアプリ『友ヶ島』を開発。アプリに採用されているのは、現在注目を集める「音声AR」技術です。参加者の位置情報をBeacon\*1やGPS等により把握しプログラムされた音声情報を自動再生する仕組みで、利用者が友ヶ島内の貴重な歴史資産に近づくと、アプリからその解説が自動的に流れるとともに画面には当時の様子を紹介する貴重な史料が映し出されます。

\*1 低消費電力の距離無線技術を活用した信号発信機で、信号を数秒に一回半径数メートル範囲に発信。

- ◎配信日： 2019年10月3日(木)
- ◎対応言語： 日本語、英語（配信開始時点）
- ◎対応OS： <Android版>・Android 7.0 以上  
<iOS版>・iPhone 6 以上(iPadでは使用できません)／iOS 11.0 以上
- ◎価格： 無料
- ◎DLはこちらから： [App Store] <https://itunes.apple.com/jp/app/id1480811792>  
[Google Play] <https://play.google.com/store/apps/details?id=ip.sarf.tomogashima>



和歌山市立博物館所蔵



国土地理院長の承認を得て、1万分1地形図を複製。承認番号 令元情複、第373号



和歌山市立博物館所蔵

## 2. 友ヶ島に眠る要塞施設をそのまま美術館に変えた、『友ヶ島第3砲台美術館』

28cm榴弾砲を8門備えた第3砲台は、友ヶ島でもっとも標高の高いタカノス山(119.7m)の山頂直下に築かれた友ヶ島要塞の主力砲台で、明治23年に完成。レンガ造りの地下施設を有するフランス式で、弾薬倉庫である棲息掩蔽部が現存するなど保存状態も良い貴重な歴史遺産です。そして、今回、この一部立入禁止区域を除き自由に探索できる歴史遺産を更にお楽しみいただく為に、音声ARアプリ『友ヶ島』を活用して音を展示することで、施設に手を加えることなくそのまま美術館として二次利用する試み『友ヶ島第3砲台美術館』をスタートします。

- ◎開館： 2019年10月3日(木)よりスタート
- ◎場所： 和歌山市加太2673番地 友ヶ島(沖ノ島)／第3砲台跡
- ◎開館日時： 水曜日休館 ※ただし、12月1日～2月29日は土・日・祝のみ開館／12月29日～1月3日を除く
- ◎入館料： 無料 (企画展は別途有料となる可能性があります)
- ◎鑑賞方法： 音声ARアプリ『友ヶ島』をインストールし、友ヶ島／第3砲台跡にお越し下さい。
- ◎URL： <https://ymtk.t3fm.jp>

### 【コンセプト】

要塞島が美術館に。  
友ヶ島第3砲台美術館

かつて、国を守るため、  
いくつもの砲台が設置され、  
要塞へと変貌を遂げた島がありました。  
やがて、訪れた太平洋戦争。  
しかし、その島が力を発揮する時は遂に訪れず、  
使われることのなかった砲台をはじめとする施設は、  
その姿、形を残したまま眠りにつきました。

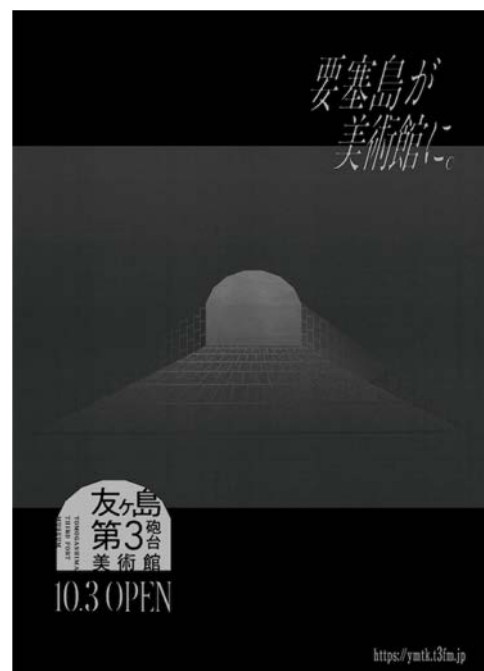
のどかな紀淡海峡に浮かぶ和歌山市友ヶ島。  
生い茂る草木。苔の生したレンガ。  
当時の姿をそのままに留めた要塞施設は、  
この国で戦争の時代があったことを、  
今に教えてくれます。

そんな施設の一つ、  
第3砲台が美術館として生まれ変わります。  
歴史遺産をそのまま生かし、  
この施設が生み出す静寂の空間に身を置く。  
そして、暗闇の中で、光に目を凝らす。音に耳を澄ます。  
それがこの美術館の鑑賞方法。  
暗い戦争の時代から時を止めた空間の中で、  
現代に産声を上げた作品と出会う。  
ここは影と光、戦争と平和、過去と現代が交錯し、  
未来が生まれる場なのです。

### 【ロゴマーク】



### 【告知ビジュアル】





## 【館内の様子】



### 3. 企画展『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』開催概要

友ヶ島第3砲台美術館の開館を記念した企画展『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』は、舞台化や映像化もされた『となり町戦争』の作者である小説家・三崎亜記さん書下ろしの物語を、音声ARアプリを活用することで、音と空間を融合させて“展覧会”という形で再構築する試みです。我々の住む世界とは異なるパラレルワールドの「友ヶ島」を舞台に、今は絶滅した「ヤミツク」という謎の生物の調査結果を辿りながら、この島で起こった不思議な出来事を追体験します。全体ディレクションは広告業界の鬼才：カイツ木谷友亮が担当。「ヤミツク」が存在した友ヶ島の神秘的な世界を創り出します。

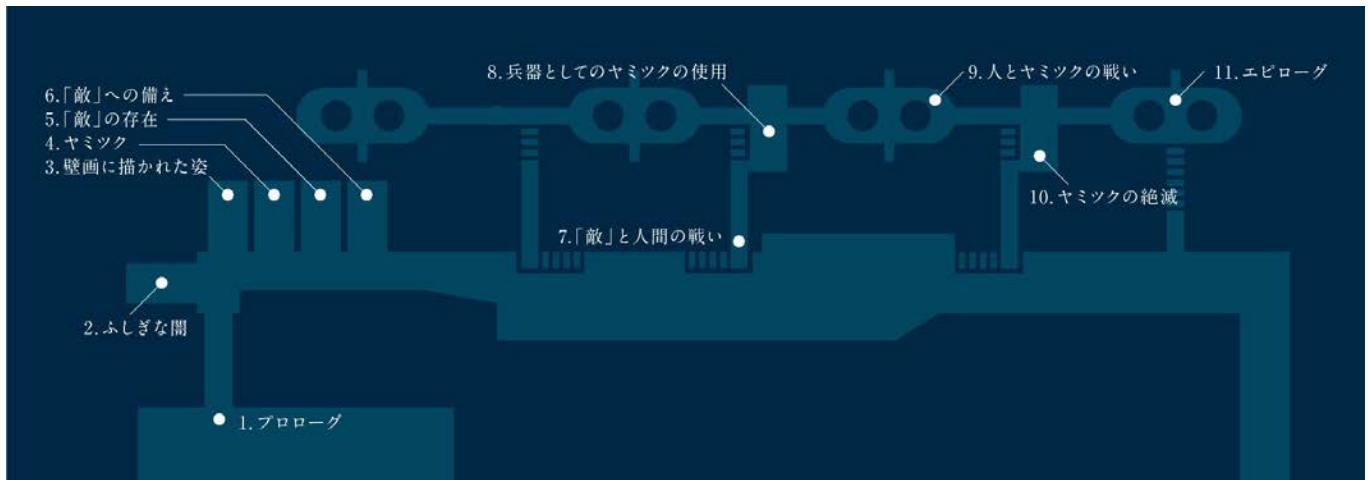
- ◎期間： 2019年10月3日(木)～2019年10月31日(木)
- ◎場所： 和歌山市加太2673番地 友ヶ島(沖ノ島)／第3砲台跡
- ◎開館日時： 水曜日休館
- ◎料金： 無料
- ◎鑑賞方法： 音声ARアプリ『友ヶ島』をインストールし、友ヶ島／第3砲台跡にお越し下さい。
- ◎URL： <https://ymtk.t3fm.jp/>

#### 『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』あらすじ

絶滅した生物である「ヤミツク」の調査は困難を極めたが、博士の粘り強い研究により、ついにヤミツクの調査結果を一般公開するに至った。



## 【会場ゾーニング】



## 【展覧会ディレクター】

### 木谷友亮 :

1976年千葉県生まれ。グラフィック広告の制作会社を経て2006年に株式会社カイブツを設立。グラフィックデザインとデジタルクリエイティブをベースに幅広い分野で活動。三井不動産「ふつうじゃない2020展」、とらや東京出店150周年記念「千里起風展」、ONE PIECE 大覚寺「魔獣と姫と誓いの花」展などの展覧会ディレクションを担当。



## 【参加アーティスト】

### ■三崎亜記 :

作家。1970年福岡県生まれ。2004年『となり町戦争』で小説すばる新人賞を受賞し、デビュー。著書に『バスジャック』『失われた町』『鼓笛隊の襲来』『コロヨシ!!』シリーズ、『ターミナルタウン』『30センチの冒険』『作りかけの明日』等。



### ■なんでもつくるよ株式会社 :

造形作家倉田光吾郎氏とその仲間たちによる、つくれそうな物ならなんでもつくる会社。

<https://nandemotsukuruyo.com/>

### ※ 倉田光吾郎プロフィール

1973年東京生まれ。独学にて鍛造を学び打撃系クリエイターとして活動。2005年「1/1スコープドック」、2007年「カストロール一号」の製作を経て、2011年、人型四脚陸戦型巨大トイロボット「クラタス」を製作し、大きな話題に。



### ■石井正信

1985年静岡県生まれ。ドローイングアーティスト。芥川賞作家の平野啓一郎氏の毎日新聞での連載小説「マチネの終わりに」の挿画、「進撃の巨人展」や明治「君と免疫。展」のキービジュアル用ドローイングなどを担当。 <https://masanobuishii.com/>



### ■瀧澤花織

東京藝術大学美術学部工芸科 卒業

東京藝術大学大学院美術研究科 鍛金専攻 在籍中

フランス パリ国立高等美術学校 留学(1年間)

東京藝術大学原田賞 受賞、日本文化芸術財団第22回奨学生



### ■江原梨沙子

女子美術大学芸術学部美術学科日本画専攻 卒業

東京藝術大学大学院美術研究科 油画専攻 壁画第二研究室 在籍中

フランス パリ国立高等美術学校 留学(1年間)



## 4. 常設展示『サウンドスケール（Sound Scale）』

和歌山児童合唱団による幻想的な童謡が、島の時空を彩る音声ARアート。広い・狭い・重さ・踊るなど、普段は音に使わない形容や動作を付与することで、空間の認識を変化させる試みです。第3砲台にある物質的には同じ大きさを持つ5つの部屋が、サウンドスケール（ここでは音階という意味ではなく音による空間演出）によって、物理法則を超えて体験者それぞれの心的作用で拡張されていく。立体的に構成された澄んだ歌声が、心に動的に配置されていくことで、視覚を通じた現実よりも聴覚を通じた仮想の方に没入していく音のインスタレーションとなります。

総合演出：【2nd Function】

世界的なファッションブランドからテクノロジー企業まで、幅広い視野でクリエイションを提供。「CES」「SLUSH TOKYO」「TOA(東京開催)」など世界的なイベントでもエンターテックを用いた演出を手掛け、インタラクティブなデジタルアートやVR/ARコンテンツ、また、メディアアートをを用いたショーなどで、国内外のメディアから高い評価を受けて来たエイベックス内のクリエイティブレーベル。